


糖尿病黄斑浮腫の新しい治療法

山形大学提供
作成日 2016年2月19日
更新日

	研究者氏名 ごとう さきこ 後藤 早紀子	所属機関 山形大学医学部眼科学講座	関連キーワード(複数可) 糖尿病黄斑浮腫、糖尿病網膜症、ステロイド点眼薬
	主な研究テーマ ・糖尿病網膜症、糖尿病黄斑浮腫		主な採択課題 ・若手研究(B) 平成24～26年度(配分総額:3,380千円) 課題名「糖尿病黄斑浮腫に対するポートフォリオシステムの構築」

① 科研費による研究成果

糖尿病患者数の増加に伴い、眼の合併症である糖尿病網膜症の患者数も増加している。糖尿病網膜症のひとつの病型である糖尿病黄斑浮腫は、網膜の中でも視力に重要な黄斑部に浮腫が存在するため視力低下をきたしやすい。糖尿病黄斑浮腫に対する治療法としては、黄斑光凝固、ステロイド眼局所投与(テノン嚢下注射、硝子体内注射)、抗VEGF薬硝子体内注射、硝子体手術が選択されている。

しかし、現時点では複数回の治療を要することが多く、また、どの治療法がそれぞれの患者さんに最適なのかを事前に予測することが難しい。そのため、個々の治療とその効果に関連する因子の検討や、より負担の少ない新しい治療法の検討をおこないたいと考えている。

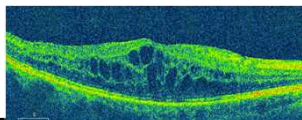
本研究ではこれまでの治療法に加え、非侵襲的治療法である点眼薬による糖尿病黄斑浮腫の治療について検討した。

新しいステロイド点眼薬であるジフルプレドナート点眼薬を糖尿病黄斑浮腫の患者に点眼したところ、平均網膜厚は点眼開始時の470 μ mから380 μ mに減少した。

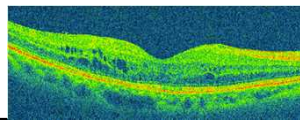
また、点眼治療を行った患者を1年間経過観察したところ、およそ50%で点眼治療のみで視力維持・黄斑浮腫軽減効果が認められた。

点眼治療により黄斑浮腫が軽減した1例

点眼開始時



1か月後



② 当初予想していなかった意外な展開

これまで、点眼薬は前眼部疾患に対しては効果があるが、後眼部には薬剤が到達しにくいことから治療効果が望めないと考えられていた。

ジフルプレドナート点眼薬による黄斑浮腫に対する治療に関して、日本、欧州(ドイツ、フランス、イギリス、スペイン、イタリア、ポーランド、トルコ)およびメキシコで特許登録された。

③ 今後期待される波及効果、社会への還元など

・糖尿病患者数の増加に伴い、糖尿病網膜症、糖尿病黄斑浮腫の患者数も今後増加すると予測される。糖尿病黄斑浮腫に対する治療として点眼薬という選択が可能となれば、患者、医師の負担軽減につながる。